

# 山田みやこの活動報告

令和6年6月18日(火)

## 塩谷町有機・特裁すぎやま農場訪問

### オーガニックビレッジ宣言を行った塩谷町の有機農業について調査

場長の杉山修一さんを訪ねた。

杉山農場は、周辺の環境や自然生態系の維持と改善、生産された農産物の食品としての安全性の確保、個別農業経営の収益性の確保と向上、地域社会形成・地域経済の発展への貢献と調和、そして、次世代を創造できる命を育むことのできる食の提供を実践しようとしている。

伺った日はちょうど大雨の日だった。その雨の中、田植えの作業中。6月のこの時期に田植えをするという昔からのやり方をすることで、雑草の生え方も少なくなるという。

約23年間この地で有機米を作っている。昨年から企業の方々の協力で、菜の花畑で昼食会開催し、楽しむことも行っている。農業の手伝いもお願いしている。

また、塩谷町の学校給食に有機米を月1回提供している。有機農業について、東京大学の鈴木宜弘教授の考えを参考にしている。

有機農業者と流通業者、そして、消費者との関係性が薄い。もっと密にすべき。日本は価格でコメを選ぶが、EUは環境に対して農法がどのように影響しているかという視点で選ぶ傾向がある。

杉山さんは、米の食味鑑定士の審査員をしていて、米生産に使われた農薬や殺虫剤等も苦みなどで判定できるという。また、タンパク加水分解物(うまみをもたらす目的で加工品等に使われているアミノ酸混合物)なども判定する。

斑点米は(カメムシによる影響)、色彩選別機にかけて斑点米は除去できるので、カメムシ退治に大量の農薬は必要ない。一般の人は農薬使用の危険性を気づいていない。非常に認識が薄い。すぎやま農場は全ての圃場で殺虫剤は使わない。田んぼに住んでいる生き物たちが仲良く暮らしていくために実践を日々続けている。農業によって生き物たちを殺し続けることよりも、生態系を良い形で構築する事によって、人間にとっても敵を作らない農業への変革は重要で求められている。理にかなった有機農法の有機JAS認証制度の取得は結構厳しいが必要である。

※杉山さんは有機農業推進のためのキーパーソンです。